

プッチーニ《西部の娘》初版楽譜（水谷彰良コレクションより2点）

《西部の娘（*La fanciulla del West*）》3幕のオペラ（Opera in tre atti）

台本：グエルフォ・チヴィニーニ（Guelfo Civinini,1873-1954）とカルロ・ザンガリーニ（Carlo Zangarini,1874-1943）

原作：デイヴィッド・ベラスコ（David Belasco,1853-1931）の戯曲『西部の娘（*The Girl of the Golden West*）』（1905年）

作曲：ジャコモ・プッチーニ（Giacomo Puccini,1858-1924）

初演：1910年12月10日ニューヨーク、メトロポリタン歌劇場

メモ

メトロポリタン歌劇場のために作曲された《西部の娘》はプッチーニ7作目のオペラ。アメリカの劇作家デイヴィッド・ベラスコ（1853-1931。《蝶々夫人》の原作者でもある）の戯曲『黄金の西部の娘（*The Girl of Golden West*）』（1905年）を原作に、ゴールドラッシュ時代のカリフォルニア鉱夫の生活を描く作品で、前衛的な音楽手法や進歩的の和声を駆使し、言葉と音楽を一体化させた意欲作でもある。

1) 初版楽譜（G.リコルディ商会、ミラーノ、1910年）

初版楽譜（ピアノ伴奏譜）G.リコルディ商会、1910年 プレート番号：113300

Spartito riduzione per canto e piano.,G.Ricordi & Co.,Milano,1910.

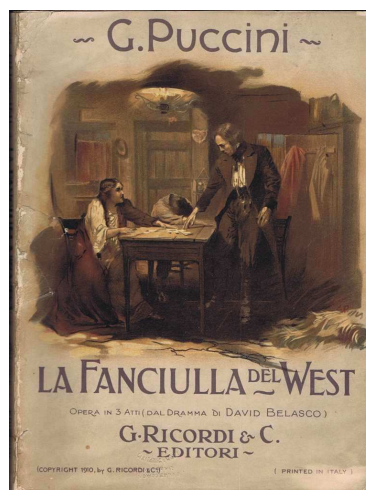
[First edition,first issue.] (2 item: Blind stamp 11.10 [November 1910] and 12.10 [December 1910])

* 1 spartito ([12],333 p.); 27.3 cm, N. di lastra: 113300

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo] 2 item

タイトル頁記載：

LA FANCIULLA / DEL WEST / OPERA IN TRE ATTI / (dal dramma di DAVID BELASCO) / di / GUELFO CIVININI / e / CARLO ZANGARINI / MUSICA DI / GIACOMO PUCCINI / OPERA COMPLETA / Riduzione di CARLO CARIGNANI / Canto e Pianoforte ... (A) netti Fr.15.- / Pianoforte solo (A) netti Fr.10.- / (Printed in Italy) / (Copyright 1910. By G. Ricordi & Co.) [下部左] / G.RICORDI & C. EDITORI / STAMPATORI / MILANO - ROMA - NAPOLI - PALERMO - PARIGI / LONDRA - LIPSIA - BUENOS-AIRES / NEW-YORK: BOOSEY & Co. [下部右]



初版楽譜の概要：

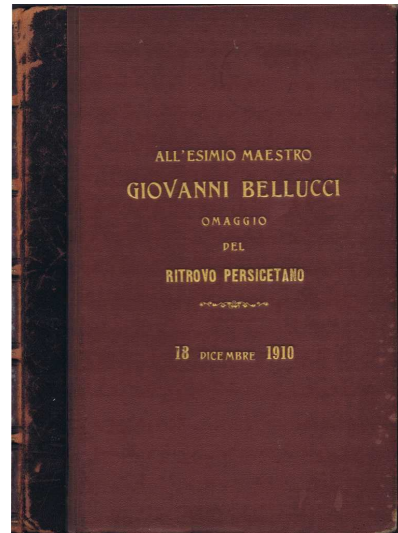
《西部の娘》の初版楽譜は、1910年にミラーノのG.リコルディ商会（G.Ricordi & Co.）から出版されたピアノ伴奏譜である。筆者はオリジナルの紙表紙のままのアイテムとハードカバー再装丁の、二つの初版初刷を所蔵している。オリジナルの外表紙を持つ初刷は外装と楽譜共に27.3×20.3cm、プレート番号：113300。

楽譜に先立つ12頁は、[1]:献辞（A.S.M. la Regina / Alessandra d'Inghilterra / rispettosamente omaggio di / Giacomo Puccini）[2]:無地 [3]:プッチーニの写真と署名の複製 [4]:無地 [5]:タイトル頁 [6]:出版社クレジット [7]:人物表（PERSONAGGI）[8]:目次（INDICE）[9]:予備の注記（NOTA PRELIMINARE）[10]:出版社の意匠 [11]:第1幕の舞台設定（ATTO PRIMO）[12]:無地。楽譜は全333頁（pp.1-333.）であるが、次のように構成されている——第1幕の楽譜（pp.1-148）、第2幕の舞台設定（頁打ちなし。裏無地）、第2幕の楽譜（pp.151-244）、第3幕の舞台設定（頁打ちなし。裏無地）、第3幕の楽譜（pp.247-333）。

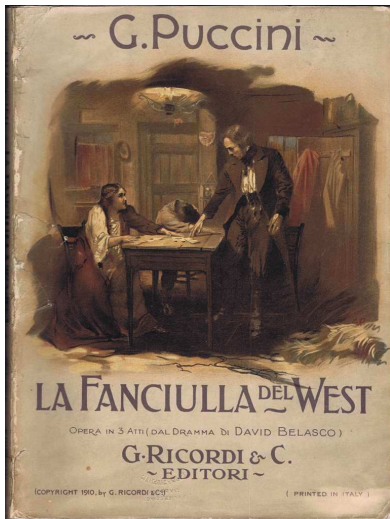
初版楽譜の制作は1910年3月14日に始まり10月に成立したが、プッチーニは初演に先立って改訂を開始し、その一部は初版楽譜に反映されている（以下、作品と楽譜に関するデータはDieter Schickling; Giacomo Puccini: Catalogue of the Works.,Bärenreiter,Kassel,2003.pp.294-314.に基づく）。販売用の楽譜は11月に用意され、プッチーニが個人的にパオロ・トスティに献呈した楽譜も同年11月の日付を持つ。

この初版楽譜は初刷のみで終わり、空押印 (timbro a secco 出荷時の押印) は 1910 年 11 月、同年 12 月、1911 年 1 月の 3 種が存在し、筆者所蔵の二つのアイテムの空押印は 1910 年 11 月と 12 月である。初版楽譜はプッチーニの自筆総譜に基づいて作成されたが、その制作過程で追加や削除を含む若干の変更があり、出荷は 1911 年 1 月分で終わり、4 月には第 2 版に当たるエディション (新版。Schickling;78.E.3) と差し替えられた (初版と第 2 版との異同詳細は Schickling, pp.304-307.を参照されたい)。

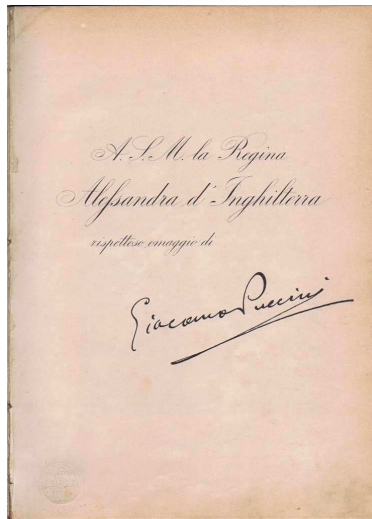
前記のように筆者は初版初刷を 2 点所蔵しているが、その一つは最初の購入者が装丁させたもので、1910 年 11 月の空押印があり、外表紙の金文字「All' esimio maestro / Giovanni Bellucci / Omaggio / del / Ritrovo Persicetano / 18 / Dicembre 1910」から発売と同時に購入して装丁させ、自分の先生に贈ったことが判る。新たな所有者は音楽家と思われ、第 3 幕フィナーレに当たる部分にみずからカットや変更を施し、第 2 版の追加部分の楽譜は末尾の見返しにすべて筆写されている。



装丁された外装



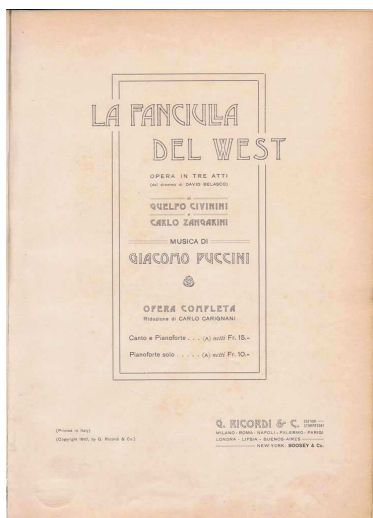
オリジナルの外表紙



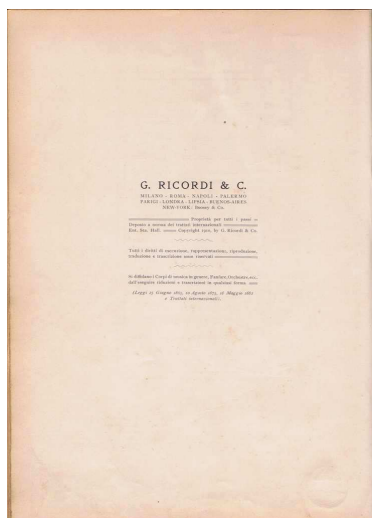
[1]: 献辞



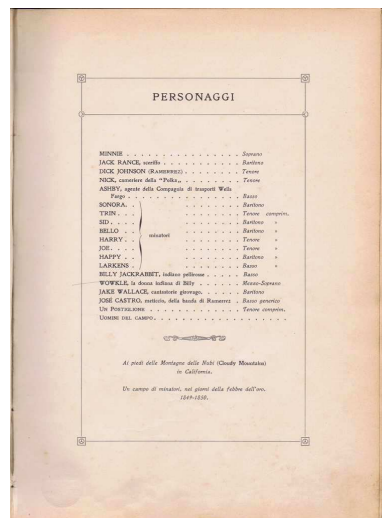
[3] プッチーニの写真と署名の複製



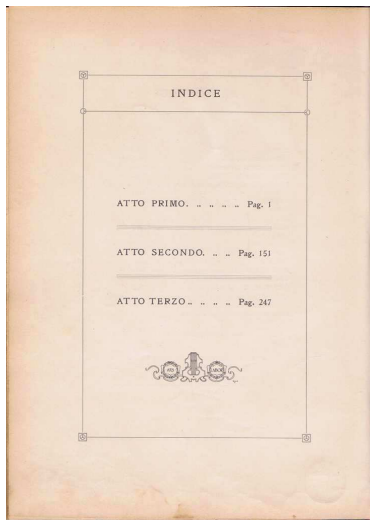
[5] タイトル頁



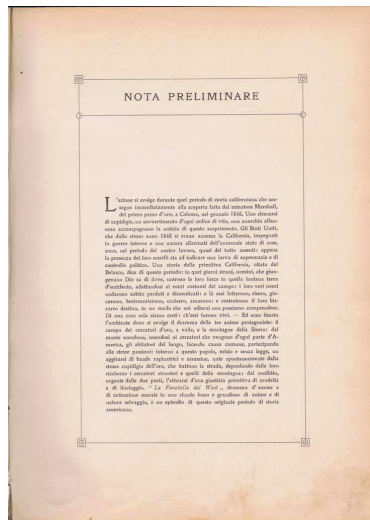
[6] 出版社クレジット



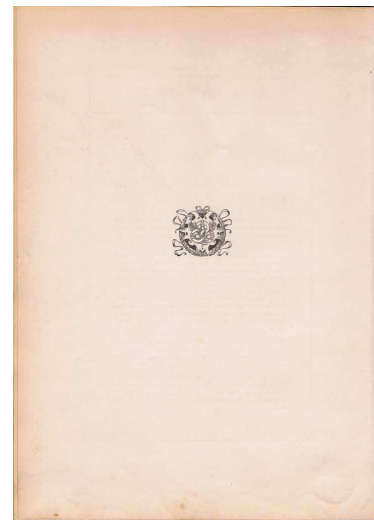
[7]: 人物表



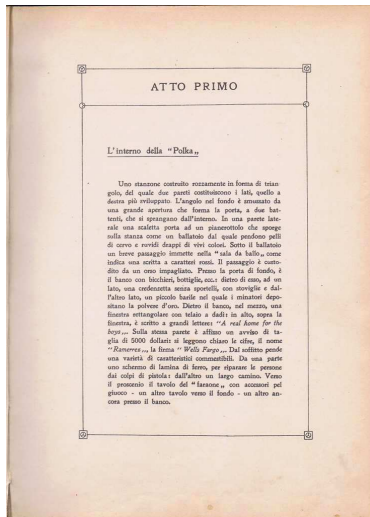
[8] 目次



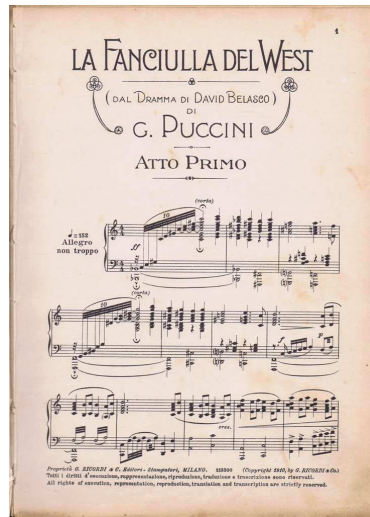
[9] 予備の注記



[10] 出版社の意匠



[11] 第1幕の舞台設定



楽譜の冒頭頁 (p.1)

付記：その後のエディションについて

リコルディ社はピアノ伴奏譜の初版と並行して総譜初版(下記)を作成し、ロンドンのリコルディ社も同時にイギリス初版となるピアノ伴奏譜を出版している(PN 113483, 338 p. イタリア初版との間に異同あり)。続いて最初の改訂版を新版として1911年3月に作成を開始し、イギリス第2版(PN 113483 [新版] 344 p.)、イタリア第2版(PN 113491 [新版] 444 p.)、総譜新版(PN 113491 [新版] 444 pages)が1911年6月までに順次出版された(その後の改訂とエディションに関しては Schickling を参照されたい)。今日決定版と理解されているエディションは、ブッチーニ没後の1925年に出版された第4版(総譜 PN 119711, 440 p.)で、そのピアノ伴奏譜は1940年頃に出版された(PN 113300, 338+2 p.)。

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

(2013年9月作成。水谷彰良)